

メディアセンターの活動の記録<2021年度>

メディアセンター本部

1. 新型コロナウイルス感染症対策

コロナ対応策として三田メディアセンターが館内施設の利用制限を行っていた間、閲覧室を事務スペースに転用して職員を分散配置していたが、基本的対策を施し3月に事務室を元の状態に戻した。

2. リソースマネジメント関連

- (1) 電子ジャーナル3大版元パッケージ購読費用の本部への集約完了

電子ジャーナル3大版元に対して支払う図書資料費を、2022年度より理工学部数理科学科分も予め本部に集約して予算申請することとなった。これにより2020年度から段階的に進めた集約が完了し、支払事務手続きの簡素化にも繋がった。

- (2) 学術論文のオープンアクセス化への協力
慶應義塾の学術成果の可視性を高めるため、学術雑誌への投稿論文をオープンアクセスにする論文掲載料（APC：Article Processing Charge）の免除や割引のある電子ジャーナル契約を、出版社ごとに条件を精査し、学術研究支援部と協力して進めている。2022年はエルゼビア社と購読+ゴールドOA契約を締結し、従来の購読モデルとの差額は学術研究支援部が管理する基金から支払われた。

3. システム関連

- (1) 図書館システムとK-LMSの連携

K-LMS（学修支援システム）と図書館システムを連携し、教員がK-LMS上で授業の参考資料リスト作成や図書館への購入依頼を行うことができるResource Lists（Leganto）がITCにより導入された。三田キャンパスでの教員数名による検証を経て、12月からの各キャンパス（看護医療学部以外のSFCを除く）での運用に合わせて利用サポートを開始した。

- (2) メディアセンターデジタルコレクションの外部との連携

4月には慶應義塾ミュージアム・commons（KeMCo：ケムコ）のポータルサイトであるKeio Object Hubと、また12月にはPRRLA（Pacific Rim Research Libraries Alliance：環太平洋研究図書館連合）が運用するデジタルライブラリPacific Rim Libraryとデータ連携を開始し、メディアセンターデジタルコレクションがよりグローバルに利活用される可能性を広げている。また2021年度は荒俣宏旧蔵博物誌コレクションを追加搭載した。

- (3) セキュリティ強化

メディアセンター業務用機器の更新にあわせて、ITCと連携してPC環境のセキュリティ強化策（EDR（Endpoint Detection and Response））を導入し5月から運用を開始した。また、公開ウェブサーバに対するサイバー攻撃への対策を根本から見直し、セキュリティ対策製品の導入、サーバ設定の再点検、コンテンツ移管・統合などを行なった。電子ジャーナルに対するクローリング疑いに関してはCSIRT、ITCと協力して調査を行い、リモートアクセスサービスのための認証におけるセキュリティ強化策としてkeio.jp認証との連携機能を更新、あわせてEZProxy hosted版へ移行して3月から運用を開始した。

4. その他

- (1) メディアセンター中期計画2016-2020の最終報告をWebサイトで公開した（6月16日）。
- (2) 第18回研修会の開催（11月19日）

「SDGsと図書館」をテーマに、オンライン研修会を開催した。国連広報センター千葉潔氏、政策・メディア研究科特任教授佐久間信哉氏、関西大学図書館薬科貴敬氏からSDGsに対する大学と図書館の取り組みについてご講演いただき、またグローバル本部の職員からSDGsの観点からみた世界大学ランキングと図書館について報告があった。メディアセンター以外の職員も含めて130名が参加した。

- (3) 世界大学図書館未来フォーラム2021（11月

- 1日)
CNKI (China National Knowledge Infrastructure) が主催するフォーラムにおいて、須田所長が Challenges and Perspectives of the Consortium of Keio-Waseda University Libraries のタイトルで講演しオンライン配信された。
- (4) 慶應義塾図書館史Ⅱ編集委員会の立ち上げ
1972年に刊行された「慶應義塾図書館史」に続くメディアセンターの50年間(1970年～2019年)の歴史を編纂する。2023年秋の刊行を目指して1月に編集委員会を立ち上げた。
- (5) 国公立大学図書館協力委員会大学設置基準改正タスクフォース
国公立大学図書館協力委員会の委員長館として、国立、公立、私立大学の各図書館協(議)会からの代表で構成される大学設置基準改正タスクフォースを立ち上げ、大学設置基準の図書館関連部分について改正試案をまとめ、文部科学省に提出した。

三田メディアセンター

1. 館内施設・設備の改善

- (1) 新館退館ゲートに退館時認証機能を追加し(4月21日)、南館図書室入館ゲートをIC対応化した(6月25日)。
- (2) 新館正面扉を自動ドアに改修した(8月)。
- (3) 携帯電話ブースBodyphonを新館1階エレベータホールに設置した(11月8日)。
- (4) 新館の職員通用口に電子錠を設置した(11月11日)。

2. 各サービスの新規導入・変更・再開

- (1) COVID-19に関連する入館制限を段階的に緩和した。
- ・通信教育課程生(4月1日)
 - ・塾員貸出券対象者(10月18日)
 - ・一貫教育校生・塾員一般入館券対象者(3月16日)
- (2) 土曜日の閉館時刻を17時から18時に変更した(4月1日)。

- (3) 文学部図書館・情報学専攻実習生の受入を再開した(8月16日～27日)。
- (4) これまで試験運用だったZoomレファレンスサービスを正式運用とした(9月10日)。
- (5) 三田地区において、K-LMS(学修支援システム)と連動したオンライン・リーディングリスト・システムLegantoの運用を開始した(11月1日)。
- (6) 新着図書展示を再開した(12月1日)。
- (7) 日曜臨時開館を再開した(12月～1月の5日間)。
- (8) 貸出資料延滞時の罰則適用を再開した(全メディアセンター共通)(2月1日)。

3. 展示

- (1) 展示会
- ・第33回慶應義塾図書館貴重書展示会「蒐められた古一江戸の日本学」(10月6日～12日)が丸善丸の内本店にて開催され、958名が来場した。展示会目録も併せて発行した(10月)。
 - ・EUフレンドシップウィーク展示を2年ぶりに開催した(3月18日～5月31日)。
- (2) 貸出
- ・「ノーベル賞受賞100年記念『アインシュタイン展』」名古屋市科学館(3月20日～6月6日)写真[アインシュタイン、三宅速 北野丸船上にて](アインシュタイン文書)他 合計7点
 - ・「ノーベル賞受賞100年記念『アインシュタイン展』」大阪市立自然史博物館(7月17日～10月10日)
アインシュタイン宅への茶会招待状(アインシュタイン文書)他 合計5点
 - ・特別展「西向くサムライ～鎌倉幕府と豊前国～」中津市歴史博物館(9月18日～11月7日)
「(藤原頼嗣袖判下文)[相良長頼地頭職補任]」(相良家文書)他 合計4点
 - ・「学びの歴史像—わたりあう近代—」国立歴史民俗博物館(10月12日～12月12日)
「慶應義塾入社帳 15号(明治16)」(福澤関係文書)他 合計5点
 - ・「足利市制100周年記念特別展『戦国武将足利長尾の武と美—その命脈は永遠に—』」足利市立美術館(2月11日～3月27日)

「足利学校易伝授書」合計1点

4. 学内協力活動

慶應義塾ミュージアム・commons (KeMCo), 福澤諭吉記念慶應義塾史展示館の開館に伴い, 以下のとおり両館への展示出品協力を行った。なお, KeMCo 開館に際しては, グランド・オープン連携企画として, 新館1階展示室において「(西洋) 文字景—慶應義塾図書館所蔵西洋貴重書にみる書体と活字」を開催した。

- (1) 慶應義塾ミュージアム・commons
 - ・グランド・オープン記念企画「交景：クロス・スケープ」(4月14日～6月18日)
「源氏物語」他 合計8点
 - ・「オブジェクト・リーディング：精読八景」(8月16日～9月17日)
「唐蘭船持渡鳥獸之圖」より「獸類之図」他 合計6点
 - ・新春展「虎の棲む空き地」(1月11日～2月10日)
「熊野権現縁起」(奈良絵本・絵巻コレクション) 他 合計14点
- (2) 福澤諭吉記念慶應義塾史展示館
 - ・常設展(5月15日～9月11日)
「慶應義塾の目的」(福澤関係文書) 他 合計24点
 - ・第1回企画展「慶応四年五月十五日—福澤諭吉, ウェーランド経済書講述の日」(7月5日～10月9日)
木村喜毅「丁卯戊辰日記」(福澤関係文書) 他 合計5点

5. 学外協力活動

- (1) アジアの機関として初めてHathiTrustに加盟した(2月)。
- (2) Google Art and Cultureにて「MANGA OUT OF THE BOX」を公開した(3月24日)。

日吉メディアセンター

1. 施設・設備の改修・変更

- (1) 2階中央廊下から東閲覧室へのドアを自動ド

アに変更した(8月)。

- (2) 4階ラウンジの内装工事を行った(8月)。
- (3) 図書館3階西閲覧室北側をフリーアクセスに改修し, PC利用可のエリアとした(2月)。
- (4) 二酸化炭素測定装置を設置した(3月)。

2. 企画・広報

- (1) 毎年恒例のライブラリーコンサートを, 10月に2回, 1階ラウンジに観客を入れてライブ配信を併用して開催した。
- (2) 5月下旬より図書館フレンズ(学生)によるTwitterでの「おすすめ本紹介リレー」を開始し, 10月に「おすすめ本紹介」, 11月～12月に「変化」というテーマで2回に渡って紹介した図書を中心とした展示を行った。
- (3) 11月に丸善丸の内本店で塾生選書ツアーを実施した。
- (4) 企画展示
 - ・新入生向けの上級生ガイドによる館内ツアーは実施せず, 随時参加可能なセルフオリエンテーリング, 日吉図書館バーチャルツアー映像を使ったバーチャルオリエンテーリングを実施した(4月)。
 - ・「日吉図書館の歴史」として, 湘南藤沢キャンパスの横文彦ルーム開設に先立ち, 横氏設計である日吉図書館について氏の自筆コンテを中心に, 四阿, 照明などテーマ別の写真や日吉図書館開館当時と現在を比べる写真を展示した(6月28日～8月20日)。
 - ・「KEIO2020 Project」の一環として, イギリスオリンピック選手事前キャンプにあわせ, 学生がイギリス関係の図書の展示を行った(6月29日～7月12日)。
 - ・「読書の秋を味わおう～ノーベル文学賞特集」では, ノーベル文学賞に焦点をあてて受賞者一覧と所蔵資料を展示した(10月11日～12月10日)。

3. 利用者サービス

- (1) 学習相談員(学生)がインスタグラムを使い, 「大学での学習に役立つ豆知識」の配信を開始し(6月18日), 相談業務は対面のほかオンラインでも実施した。

- (2) 「オンラインで読める教科書一覧」を、日吉図書館分と協生館図書室分に分けて作成して公開するよう変更した（5月）。
- (3) オンラインチュートリアルシステムKITIEの掲載内容をリニューアルして2022年3月に公開した。
- (4) 蔵書リフレッシュとして、専任職員10名で分担して蔵書の見直し、除籍、買い替えなどの促進を開始した（1月）。
- (5) JST博士後期課程学生支援プロジェクトへの協力として、『情報検索』『博士論文と著作権』のテーマで約20分の動画を作成し、2月にK-LMS（学修支援システム）上で公開されている。

4. 資料移動・除籍

- (1) 書庫狭隘化対策の一環として、山中資料センター配架の日吉所蔵図書のうち、山中資料センター内で重複する図書を除籍した（7月～12月）。
- (2) 4階配架の大型本のうち、横長本（大型地図類等）を来往舎レファレンスライブラリーへ、その他を日吉保存書庫へ移動した（8月～9月）。
- (3) 地下書庫配架の研究室非図書資料を除籍した（7月）。

5. 新型コロナウイルス感染症対策関連

- (1) 2020年度末に入館ゲート脇に設置した混雑状況表示パネルは、2021年度は感染状況や館内利用範囲の変動に合わせて満席数の設定を変えながら運用した。
- (2) 2021年4月より、開館時間を従来の平日21時まで、土曜18時までの通常開館に戻し、以下の施設の利用を再開した。
 - ・AVホールは授業での利用のみ再開した。
 - ・1階ラウンジはソファの配置を変更し、PC席は、1席空ける間引き使用とした。
 - ・1階並木側PCエリアは、飛沫防止パネルを設置して全席使用し、この場所を使った対面でのセミナーも再開した。
 - ・キュービクルは、利用者自身で消毒を実施し、同日中に同じ部屋を2名以上に貸さないこと

を条件に元の運用に戻した。

- ・期末試験期の混雑緩和とPC利用者の増加に対応するため、利用停止中のグループ学習室の一部を個人利用の自習室として開放し、PC利用不可の3階西閲覧室北側エリアでのPC利用を可能にした。
- (3) 文学部図書館・情報学専攻実習生の受入を再開した（8月10日～20日）。
 - (4) ブックポスト（返却ポスト）の正面入口前への設置を継続していたが、2022年2月に従来の運用に戻した。
 - (5) 2022年4月に向けて、ほぼ全ての閲覧席の利用を可能とするよう、未設置の閲覧席へ飛沫防止パネルを設置した（2月）。

6. 協生館図書室

- (1) 2021年4月より、開室時間をCOVID-19感染拡大以前に戻し、入室予約を廃止し、閲覧席は半分までを使用可能とした。
- (2) 入退室ゲートを更新し、在室者数を表示できるようになった（8月）。
- (3) SDGsガイド（協生館図書室）を公開した（7月）。
- (4) 書庫狭隘化対策の一環として、経営管理研究所蔵の洋雑誌のうち、日吉保存書庫配架で他キャンパスにも所蔵がある資料を除籍した（11月～3月）。

信濃町メディアセンター

1. 教育・学習支援

- (1) 開館時間短縮
新型コロナウイルス感染症の拡大への対応として4月下旬から3月末まで平日の開館時間を1時間短縮して20時閉館とした。
- (2) 閲覧席・ITC-PCエリアの一部開放
コロナ禍で利用不可としていた1階閲覧室、書庫1～2階の閲覧席、1階くつろぎ閲覧エリアの座席の一部を利用可能とした（10月）。またITC管轄のPCのうち、1階のエリアのPCの一部を利用可能とした（12月）。
- (3) レファレンスデスクでの対面サービス再開

閲覧席の一部開放にともない、それまで12時30分～15時だった対面サービスを、通常時の8時45分～17時に戻した（10月）。

- (4) お届けサービス手数料免除終了
複写物を院内便あるいは郵送で届けるお届けサービスの手数料免除（サービス制限期間の特別措置）を終了した（1月）。
- (5) 教科書リストのリニューアル
Webサイト（PDF）とLibGuidesで提供していた教科書リストをWebサイト（HTML版）に統合、リニューアルし、公開を開始した（1月）。冊子、電子ともメディアセンター所蔵資料はKOSMOSデータにリンクされている。

2. 研究支援

- (1) 「見える化プロジェクト」調査
医学部企画室より依頼があり、各教室（基礎系の場合はさらに細分化した研究室）について、文献数や被引用数、Top10%論文率やh-indexを調査し、提出した（12月）。

3. 医療活動支援

- (1) 関連病院図書担当者連絡会開催
オンライン（Zoom）で開催し、10機関10名が参加した（3月）。電子リソースコンソーシアムの契約状況報告や、メディアセンターの活動報告、健康情報ひろば、KOMPASの紹介を行い、最後に懇談として質疑応答や参加者の近況報告があった。
- (2) 健康情報ひろばのサービス再開
2019年度末より閉室していた病院内の健康情報ひろば（2号館2階）を再開し、嘱託職員による常駐が始まった。ボランティアスタッフの活動はいったん再開したものの、感染者数の増加により間もなく休止した（1月）。

4. サービス基盤業務

- (1) 入退館システムのリプレース
入退館ゲートとBDS（ブックディテクションシステム）のリプレースを行った。新しい入退館システムでは退館時のチェックも行うことで館内の滞在者数が把握できるようになった（2月、3月）。

- (2) IMIC事務室跡地の改装
IMIC（国際医学情報センター）との契約終了にともない、地下フロアのIMIC事務室跡地に書架を設置した（3月）。
- (3) 蔵書点検の実施
4年ぶりに実施し、山中配置資料を除く信濃町の配置資料全点を対象として、開館時間内に作業した。
- (4) ITCヘルプデスクの撤収
レファレンスデスク隣に設置していたITCヘルプデスクが撤収された（12月）。

理工学メディアセンター

1. 施設・設備の改修・変更

- (1) セミナールームのカビ防止ならびに感染症対策として空気循環式紫外線清浄機（エアリア）を導入（5月／3月）、数理科学科図書室へも9月に3台導入した。
- (2) 本館1階セミナールームCに75インチ大型モニターを壁付けで設置した（6月）。
- (3) 創想館地下自習室のBDS（ブックディテクションシステム）を更新した（9月）。
- (4) 慶應義塾協生環境推進室の取り組みであるナブキン無料提供サービスOiTrを設置した（12月）。
- (5) 本館事務室にセキュリティシステムを導入した（1月）。
- (6) コロナ禍で利用困難となった冷水機の撤去を行い、代替としてSDGs実践につながるウォータースタンドの設置準備を行った（2月）。

2. COVID-19対策と段階的制限緩和

- (1) 職員による館内機器の消毒作業は年度を通して1日1回実施した。
- (2) 10月1日より感染対策の上、創想館1階のマルチエリア、創想館地下自習室を利用可能に変更した。
- (3) 感染者の減少、利用者の増加に伴い、11月より、閲覧席数制限を段階的に解除した。二酸化炭素濃度測定装置を館内10か所に設置するとともに、換気量調査を実施し、館内環境の

安全維持に努めた。

- (4) 12月には、閉鎖していた創想館地下セミナールームA, Bを用途変更し、学生から問合せの多かったオンライン授業等の個人利用席として利用を再開した。
- (5) 1月より、平日閉館時刻を20時から21時30分に変更し通常開館時間に戻した。また試験期間のサービス通常化に向けて、閉館から24時までの自習室開室を再開し、日曜開館を1月に2日間実施した。

3. 企画・広報・イベント

- (1) 2021年度ノベルティグッズとして「STAY SCIENTIFIC!」の合言葉と館名をいれた画面クリナーを作成した。コロナ禍での自粛を表現する常套句となっていた「STAY HOME」に負けない気持ちが込められ、広報グッズとして活用した。
- (2) 広報紙「理工学メディアセンターニュース」のコラムとの連動企画である小展示：理工学部教員の「私の一冊」を6月1日～7月31日に実施した。
- (3) 前年度に実施できなかった選書ツアーを9月9日に紀伊國屋書店新宿本店で行った。学生の選定により新規購入された資料の展示がPOP付で以下の期間に開催され、学生目線の蔵書構築・空間作りへ活かされた。2021年12月13日～2022年2月28日
- (4) 10月4日に松下記念図書館開館50年を迎え、記念事業として以下の作成を行った。
 - ・スライドショー「写真が語る理工学メディアセンターのあゆみ」10月4日公開
 - ・展示「写真でたどる理工学メディアセンターのあゆみ」10月18日-11月30日 創想館1階
 - ・記念グッズ：ステンレスボトル作成
 - ・記念誌500部刊行 3月31日
- (5) コロナ禍で中止となっていたサイエンスカフェを約1年半ぶりに開催した。対面/オンラインのハイブリッド形式で番外編も含めて合計3回実施するとともに、許諾を得られたものはメディアセンターWebサイトよりkeio.jp認証を利用して録画視聴可能とした。

4. 利用者サポート・セミナー

- (1) 大学院生スタッフによる学部生への学習支援（ラーニングサポート）を対面/オンラインの両方で提供し、前年度は実施困難だった学生の相互扶助のサービスを以前の実施水準まで引き戻した。
- (2) 年度を通して、すべてのセミナーをオンライン形式で開催した。他キャンパスとの共催や、学期を入れ替えて相互に実施し、キャンパスの垣根を越えて学生の受講機会や選択肢の増加につながった。また外部講師の許諾を得られたものはメディアセンターWebサイトよりkeio.jp認証を利用して録画視聴可能とし、来校を控える期間の研究・学習を支援した。
- (3) 文学部図書館・情報学専攻実習生の受入を再開した（8月16日～27日）。

5. 指定寄付

一般財団法人 慶応工学会より学術振興事業の一環として、学生用図書購入のための寄付金15万円をいただいた。

湘南藤沢メディアセンター

1. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応

2021年度春学期、メディアセンターでは開館時間を21時まで延長時間とした。看護医療学図書室は、引き続き18時までの短縮開館を継続した。

秋学期には、湘南藤沢メディアセンターの藤沢市民、メディアセンター全体での貸出券を持つ卒業生、紹介状を持つ学外者の利用をそれぞれ再開した。また、ファブスペースとAVカウンターは、予約制を止めて当日受付に戻した。看護医療学図書室は、引き続き、看護医療学部及び健康マネジメント研究科所属の学生、教職員のみ利用に限定した。なお、声出しが必要なオンライン授業受講などのためにグループ学習室の利用を1名限定で再開した。

2022年度春学期の準備として、メディアセンターでは学事担当の要請に応じて声出し・音出しなしのオンライン授業の受講を館内全域で公式に認めることとし、閲覧席全体の使用制限を見直して1階から3階で約290席に拡大した。なおこの間、キャンパ

スの対応としてメディアセンター地下施設やラウンジ、グループ学習室などにCO2モニターが設置されている。

2. 施設関連

(1) 榎文彦ルームの開設

キャンパスの施設として「榎文彦ルーム」がM館4階（旧ビスタルーム）に開設され、開設記念式典と見学会が行われた。今後、メディアセンターは入館対応で協力する。

(2) 主な設備工事

- ・メディアセンター1階オープンエリア洗面所改修
- ・メディアセンター撮影スタジオの換気設備増強、クロマキーカーテン追加設置

3. ライブラリーサービス関連

(1) オンラインの飛び込みレファレンスサービス
レファレンスデスクに飛び込みで相談するような形で、Zoomを使用したオンラインによるレファレンスサービスを開始した。

(2) SFC論文掲載料補助制度への協力

新設された「SFC 論文掲載料補助」制度に協力して、学術研究支援担当から依頼のあった論文の掲載誌インパクトファクター調査を実施することになり、10月と3月に調査を実施した。

(3) オンデマンドセミナーの名称変更

授業や研究会担当教員からの要望に応じて開催しているオンデマンドセミナーの名称を、オンラインのオンデマンドと誤認されるため「出張セミナー（Customized Seminars）」に改めた。

(4) SFC創設30年記念写真展の終了

1階オープンエリアで開催していたSFC創設30年記念写真展は、記念の年から2年目に入ったことから1月7日で終了した。なお、資料展は、当面、常設として継続している。

(5) e-KAMO Systemの公開終了

SFCの学位論文を中心に資料や写真などを公開していたe-KAMO Systemは、老朽化してセキュリティ上の問題もあったため2021年度末で公開終了とした。なお、学位論文は

「SFC学位論文リスト」としてSFC並びに信濃町キャンパス限定で再公開している。

(6) 学生コンサルタントによる主な活動

- ・ライティング&リサーチコンサルタント
 - オンライントークショー「こねろよ、研究。～「豊かな卒プロづくり」のhow toをめぐって～
- ・メディアセンターフレンズ
 - ツイッタータイズ企画：「SFCのこの場所どこだ！！（5～7月）」「教えて！！メディアセンターの活用術（10～12月）」
 - オンラインイベント：メディアセンターの「なかのひと」YouTubeライブ配信
 - オンラインイベント：メディアセンターの「なか」YouTube配信

4. マルチメディアサービス関連

(1) モーションキャプチャ講習会の再開

2020年度開催できなかったモーションキャプチャ講習会を2日間にわたり開催し、それぞれ13名、8名の学生が参加した。

(2) 教室AV機器の授業配信対応

11教室で天吊りカメラ（7教室は対象者を自動追尾するAI機能付き）の更新・新規設置を行い、秋学期から授業用のWeb会議（Webex・Zoom）で利用できるようにした。

5. 看護医療学図書室関連

(1) 書架狭隘化対策

閉架（電動）書架のスペースが狭隘化しているため、旧版の図書を除籍するとともに製本雑誌の棚ずらしを実施した。

(2) 企画展示

- ・オンライン／館内展示：「大学生活スタートブック」
- ・館内展示：「とにかくかんたん！ 入門の書」

薬学メディアセンター

1. 閲覧サービス

- (1) 芝共立キャンパスの規制に沿い、前年度に引き続き薬学部および薬学研究科所属者のみ利

用可能とした。

- (2) 緊急事態宣言期間中も原則として通常通り開館し、定期試験前・期間中の日曜祝日開館も実施するなど、自習室としての需要に応えた（4月末から5月の土曜日は休館）。
- (3) 学外者のセルフコピー料金を、他キャンパスの料金体系にあわせて変更した（モノクロ40円→10円、カラー150円→50円）。
- (4) 1月末の延滞金免除措置終了後もとくに混乱はなかった。2月からは入口前に設置している返却ポストを閉館時のみの利用とするコロナ以前の運用に戻した。
- (5) 2月10日は降雪のため閉館時間を繰り上げた（21時→18時）。

2. 学習環境の整備

- (1) 感染症対策として閲覧席を68席（PC席を含む）に減らしていたが、芝共立キャンパスの方針に従い機械換気量の上限人数である110席まで増席した（10月）。
- (2) グループ学習室は本年度も発話可能な閲覧席として個人利用を認め、オンラインでのミーティングや学会、就職活動のWeb面接等に利用された。
- (3) 閲覧席やグループ学習室で使用していない椅子にカビが発生したため、職員が除去や拭き取りなどで対処した。
- (4) 3階閲覧室に防犯カメラを増設し、防犯対策を強化した（3月）。
- (5) ブラウジングコーナーのレイアウトを、資料がより見やすくなるよう変更した（3月）。
- (6) カウンターに利用者用ITC端末を1台設置し（6月）、クイック端末として利用してもらうほか、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス用の端末としても使用することとした。

3. 学習・研究支援

- (1) 授業における情報検索指導について知るため、「医薬品情報学1」（10月）「実務実習事前学習（実習）」（11月）を聴講した。
- (2) 文献取寄せ費用の一部補助サービス開始により複写依頼が増加。過去にはあまりなかった海外からの取寄せ事例も複数あった。

- (3) 利用案内パンフレットを翌年度用に作成した（3月。4年ぶり）。

4. 資料関連

- (1) データベース「U.S. Pharmacopeia-National Formulary Online版」を契約した（5月）。
- (2) 2021年度以降の修士論文はメディアセンターで取り扱わないことが、大学院カリキュラム委員会で決定した（5月）。
- (3) 既存資料の見直しとして、保存や閲覧供用の必要性が低いと判断された名簿類や、閲覧できなくなった機械可読資料を除籍した。
- (4) 蔵書点検を3年ぶりに実施した。専門業者ではなく、職員やカウンターの委託スタッフで行うのは9年ぶり。ラベル間違い等を数多く発見し修正した。

5. 業務基盤整備

- (1) 本年度より夜間の業務委託時間を1時間延長し開始時刻を早め（17時40分から16時40分へ）、職員の時差勤務をなくしたことで、職員との連携を密にし、カウンター業務の安定化を図った。
- (2) 書架の清掃やカビの除去作業を夜間・休日開館の委託業務に組み込み、日常的に実施することとした。

6. その他

- (1) 日本薬学図書館協議会定期総会・パネルディスカッション「コロナ時代における図書館運営」に須貝所長が参加し、薬学メディアセンターの取り組みについて発表した（6月）。
- (2) 新入職員の芝共立キャンパス職場研修生に2日間対応した（4月）。また、三田および信濃町メディアセンターの文学部図書館・情報学専攻実習生が来訪し、薬学メディアセンターの見学対応をした（8月。それぞれ半日）。
- (3) 薬学メディアセンターWebサイトに「沿革」のページを作成した。
- (4) 学生図書委員会の対面開催に代わり、Googleフォームにより学生の意見を募った。